

1950年代、1980年代生まれの人々のライフコースとケア経験 —名古屋圏でのインタビュー調査から—

山根 真理 (愛知教育大学)

1. はじめに

2020～22年度科学研究費補助金助成¹⁾を受けて行ったプロジェクト『ライフコースと世代』再編に関する比較家族的的研究の成果公表の一部として、日本調査の結果を報告する。プロジェクトの目的は、東アジア、東南アジア、西アジア、ヨーロッパに射程を広げたライフコースの比較調査と、歴史人口学、家族史とライフコース研究の対話を通して、多面的な比較家族的認識を得ることである。プロジェクトの理論的関心は、ライフコース研究と家族変動論の対話をはかることにある。本研究はライフコースと歴史的時代の関連に注目する研究蓄積に多くを負っている。本研究のライフコース研究としての特徴は、ジェンダー視角を重視する点にある。なかでも特に、妊娠・出産などリプとダクションにかかわる経験、子育て、介護などケアにかかわる経験に重点をおき、それらを支えるネットワークにも注目する点が、本プロジェクトのライフコース研究としての独自性である。

報告ではプロジェクトの一環として2023～4年に愛知県名古屋圏で実施したインタビューデータから、1950年代、1980年代生まれの人々のライフコースとケア経験について、世代と性別、地元層／流入層による傾向性に注目して考察する。2009年に1920～40年生まれの方を対象に実施した「アジア・ライフコース調査」²⁾結果もあわせ、ライフコースのなかのケア経験の変容と持続について重層的に考察したい。

2. 方法

プロジェクトの調査対象地域は、韓国、中国、フィリピン、デンマーク、トルコ、日本である。日本調査は、2023年3月から2024年3月にかけて、名古屋市及びその周辺市に住む1950年代、1980年代生まれの人を対象に行った。1950年代生まれ世代10人(男性4人、女性6人)、1980年代生まれ世代6人(男性2人、女性4人)の方々の協力を得た。方法はインタビュー調査である。社会教育施設及び知り合いを通してインタビューへの協力を依頼した。1時間から2時間程度、基本的には対面で、用意した質問シートに沿って半構造化インタビューを行った。調査実施にあたり愛知教育大学研究倫理委員会の承認を得た。(承認番号:AUE20220304HUM)

3. 結果と考察

1950年代生まれの協力者の子育て・子育てについての結果と考察を要約的に記す。①生まれ育った頃、母親は「専業主」として子どもの世話に専念する存在ではない。子育ては関係性の網の目に埋め込まれており、父方母方では父方親族のケアを受けた人が多い。他方、母方親族の柔軟な関係も見られる。②自分の子どもを育てたころの経験をみると、就労しない状況の下では子どもの母親が中心的ケアラーとなっている。父親のケアはあるとしてもサポートである。親族の支援は、自分が生まれ育った時と比べると、相対的に妻方親族の支援が浮上している。③孫とのかかわりについて、男性が「孫のケアをする」事実や展望が語られた。

1980年代生まれの子育て・子育て経験についての結果と考察は以下の通り。①生まれ育った頃、自分の母親が中心的なケアラーと回答した人が多い。父親を補助的な存在としてあげた人は2人である。親族(祖父母が中心)のケアについては、父方親族と母方親族が拮抗している。②子育てをしている共働きの4人のうち、3人の家庭において父親は「補助」ではなく、欠くことのできない共同ケアラーである。③子どもにとっての祖父母は重要な子育ての支援者である。④保育無償化、認定子ども園の普及、男性の育児休業推進など、制度改革・推進の影響を受けている。報告では介護の経験も含め、ライフコースのなかのケア経験の変化と連続性について考察し、日本のライフコース研究のなかの本研究の位置と、家族変動論へのインプリケーションについて考えたい。

注

- 1) JSPS 科研費 20H01567 『ライフコースと世代』の再編に関する比較家族的的研究(2020-2年、基盤(B)、代表 山根真理)
- 2) JSPS 科研費 19330105 「20世紀アジアの社会変動と高齢者のライフコース—家族イベントの聞き取りを通して—」(2007-9年、基盤(B)、代表 山根真理)の一環として実施した。

キーワード: ライフコース、世代、ケア